

民間療法の知恵を活かす

自然派歯みがき

なすの黒焼は、江戸時代に歯みがき粉として使われていました。

「デンシー」は正食の創始者・桜沢如一先生が

“DENTAL”(デンタル)をもじって作られた造語です。

「デンシーハミガキ」は、「なすの黒焼は粉末で使いにくい」

「なすの黒焼を配合した練歯みがきがほしい」という

ご要望から約30年前に開発された品。

炭のしぶきが衣服を汚すことがあるので、

エプロンなどをご使用ください。



64400 (ムソー)

New デンシーハミガキ

リニューアル

80g

¥460 (本体価格) ¥497 (税込価格)

9月初旬発売予定

なすび黒焼(炭)配合ハミガキ。歯石の沈着・口臭及びムシ歯を防ぎます。合成界面活性剤・防腐剤・発泡剤・着色料無添加。

※処方の一部変更し、品名とパッケージを変更します。ムソーコード・容量・価格・JANの変更はありません。

【全成分】水(溶剤)、塩化Na(収れん剤)、シリカ(清掃剤)、グリセリン(湿潤剤)、エタノール(溶剤)、炭(清掃剤)、キサンタンガム(粘結剤)、メントール(清涼剤)

64401 (無双本舗)

なすの黒焼

50g ¥350 (本体価格) ¥378 (税込価格)

ナスビのヘタと食塩を混合し、黒焼にして粉末にしたものです。炭と塩の働き

により、口臭を除き、歯ぐきを引き締めます。

【原材料】

なす、食塩



伝統の一品

× 合成界面活性剤入りの 歯みがきは危険!

一般的な歯みがきを使った後、すぐにお茶を飲んだり、ミカンを食べたりして「味が変わった」という経験をしたことのある方は多いと思いますが、それは歯みがきの中に入っている合成洗剤の成分(合成界面活性剤：ラウリル硫酸ナトリウム)によって舌の味覚を司る細胞が壊されているためです。

もっともわかりやすいのはミカンです。合成の歯みがき

で磨いた後は、甘酸っぱいはずのミカンを苦く感じてしまいます。一種の味覚障害を起してしまう訳です。ぞっとする話ではありませんか。(シャボン玉石けん「挑戦・無添加を科学する~人と自然によりやさしく」より)

